

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(MENAランキングシリーズ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MENAranking.html>)

マイライブラリー:0248

(注)本稿は2012年11月9日から16日まで6回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2012.11.17

前田 高行

MENA(中東・北アフリカ)19カ国の「ビジネス環境」(2013年版)

(MENA なんでもランキング・シリーズ その13)

目次	頁
1. 「Economy Rankings – Doing Business」について	2
2. サウジアラビアは世界22位、日本を上回る	2
3. 評価項目毎のランク	3
4. 主要5カ国と日本との比較(レーダーチャート)	5
5. 2009～2013年の順位の推移	6
6. MENA 主要5カ国と日本、中国の世界順位の比較	7

中東北アフリカ諸国は英語の Middle East & North Africa の頭文字をとって MENA と呼ばれています。MENA 各国をいろいろなデータで比較しようと言うのがこの「MENA なんでもランキング・シリーズ」です。「MENA」は日頃なじみの薄い言葉ですが、国ごとの比較を通してその実態を理解していただければ幸いです。なお MENA の対象国は文献によって多少異なりますが、本シリーズでは下記の19の国と1機関(パレスチナ)を取り扱います。(アルファベット順)

アルジェリア、バハレーン、エジプト、イラン、イラク、イスラエル、ヨルダン、クウェイト、レバノン、リビア、モロッコ、オマーン、パレスチナ自治政府、カタール、サウジアラビア、シリア、チュニジア、トルコ、UAE(アラブ首長国連邦)、イエメン、

これら19カ国・1機関をおおまかに分類すると、宗教的にはイスラエル(ユダヤ教)を除き、他は全てイスラム教国家であり OIC(イスラム諸国会議機構)加盟国です。なおその中でイラン、イラクはシーア派が政権政党ですが、その他の多くはスンニ派の政権国家です。また民族的にはイスラエル(ユダヤ人)、イラン(ペルシャ人)、トルコ(トルコ人)以外の国々はアラブ人の国家であり、それらの国々はアラブ連盟(Arab League)に加盟しています。つまり MENA はイスラム教スンニ派でアラブ民族の国家が多数を占める国家群と言えます。

第13回のランキングは、World Bank(世界銀行)の一グループ Doing Business がおこなったビジネス環境に関する世界各国のランキング(Economy Rankings)2013年版について MENA 諸国をとりあげて比較しました。

* Doing Business のホームページ: <http://www.doingbusiness.org/>

1. 「Economy Rankings – Doing Business」について

「Economy Rankings – Doing Business 2013」は、世界185の国あるいは地域のビジネス環境をランク付けしたものであり、当該国・地域でビジネス活動を行う場合の難易度を知る目安になる。判定は以下の10項目について順位付けを行い、それら10項目の順位の加重平均によって総合順位(Ease of Doing Business)が決められている。

- (1) Starting a Business (起業)
- (2) Dealing with Construction Permits(建設許可)
- (3) Getting Electricity (電力事情)
- (4) Registering Property(登記)
- (5) Getting Credit(信用取得)
- (6) Protecting Investors(投資家保護)
- (7) Paying Taxes(徴税)
- (8) Trading Across Borders(通関)
- (9) Enforcing Contracts(契約強制力)
- (10) Resolving Insolvency(清算)

ランク付けの対象となった国・地域の数は185であるが、そのうち MENA は18カ国及びパレスチナ自治政府の19であり、リビアのみがランク付けされていない。

2. サウジアラビアは世界22位、日本を上回る

(表http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/13-T01.pdf 参照)

MENA 諸国の中でビジネス環境が最も良いとされているのはサウジアラビアで世界順位は22位である。因みに同国の順位は日本(24位)よりも高い。サウジアラビアについて MENA で二番目に高い評価を受けた国は UAE(世界26位)であり、次いでイスラエル(世界38位)、カタール(同40位)、バハレーン(同42位)、オマーン(同47位)、チュニジア(同50位)の7カ国が世界50位以内に入っている。これら7カ国のうち5カ国(サウジアラビア、UAE、カタール、バハレーン、オマーン)は GCC 加盟国である。GCC 加盟国のうちクウェイトのみは82位にとどまっており、他の5カ国との格差が大きい。8位から10位まではトルコ(世界71位)、クウェイト(同82位)、モロッコ(同97位)である。

上記以外のその他 MENA8カ国、1組織(パレスチナ自治政府)はビジネス環境としては世界の100位以下にとどまっている。それらを順に列挙すればヨルダン(世界106位)、エジプト(同109位)、レバノン(同115位)、イエメン(同118位)、パレスチナ自治政府(同135位)、シリア(同144位)、イ

ラン(同145位)、アルジェリア(同152位)、イラク(同165位)となる(リビアはランク付けされていない)。イラクは国内の治安が不安定で行政機構が十分な機能を発揮していないことがビジネス環境の評価を低くしていると考えられる。

本調査では世界1位はシンガポールとされ、米国が4位に入っている。日本は世界24位であり、MENA 各国と比較するとサウジアラビア(22位)と UAE(26位)の間にある。また中国は世界91位で調査対象183カ国中ではほぼ中間に位置し、MENA 諸国と比べるとクウェイト(82位)より低くモロッコ(97位)より高い。

3. 評価項目毎のランク

(表http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/13-T02.pdf 参照)

評価の対象となっている10項目について MENA 各国のランクを概観すると以下の通りである。

(1) Starting a Business (起業)

事業をスタートさせる難易度である「Starting Business(起業)」について MENA 諸国の中で最も起業しやすいとされた国は UAE(世界順位22位、以下同じ)である。これに次ぐのがエジプト(26位)、イスラエル(41位)、モロッコ(56位)、チュニジア(66位)の順である。トルコ、オマーン、サウジアラビアは70位台であり、またバハレーンとイランも80位台にとどまっている。カタール、ヨルダンは100位以下であり、クウェイト、アルジェリアの世界順位は140位以下である。カタール及びクウェイトの GCC2カ国は他の GCC4カ国に比べランクがかなり低い。

(2) Dealing with Construction Permits(建設許可取得)

進出国の関係政府機関から工場を建設するための許認可を取り付けるための難易度を見ると、バハレーン(世界順位7位、以下同じ)が世界のトップテンに入っている。この項目では UAE(13位)、カタール(18位)等 GCC 加盟国は世界的にもランクが高い。さらにサウジアラビア(32位)、オマーン(59位)と GCC 各国が上位を占めている。但しここでもクウェイトは世界119位であり他の GCC5カ国に大きく立ち遅れている。

一方 MENA でランクが最も低いのはイラン(166位)であり、エジプトも160位台で世界183カ国の中でもかなり低い。この他トルコ(142位)、イスラエル(139位)など MENA の主要国は全体的にランクが低い。イスラエル、エジプト及びトルコは MENA 諸国の中では外国企業が数多く進出しており工業化の進んだ国と言えるが、この項目の世界順位が低いのは規則の整備が遅れ或いは行政が非効率であることをうかがわせる。この項目では GCC 諸国とエジプト、イラン、トルコなどの MENA 地域大国の格差が大きい。

(3) Getting Electricity (電力事情)

企業特にメーカーにとって進出先で安価で安定した電力が得られるか否かは事業の成否を決定する大きな要素と言える。MENA トップは UAE(世界順位7位、以下同じ)であり、サウジアラビア(12位)、カタール(25位)、ヨルダン(38位)の各国がこれに続いている。世界40位台にはイラク(46位)、

レバノン(47位)、バハレーン(48位)が並んでいる。この項目のトルコ、イスラエル及びエジプトの世界順位はそれぞれ68位、91位、99位でありあまり高くない。フセイン時代の古い設備を抱え電力事情が良くないとされているイラクが、これら3カ国よりも評価が高いことは興味深い。

(4) Registering Property(登記)

この分野ではサウジアラビアと UAE が共に世界12位で MENA トップである。両国に続くのはオマーン(世界18位)、バハレーン(29位)、カタール(40位)であり、GCC 諸国が MENA の上位を占めている(但しクウェイトは89位)。

これに対して登記の難易度が高いとされているのは、アルジェリア(172位)、イラン(165位)、モロッコ(163位)などである。この分野のイスラエルの順位は世界144位であり、上記(2)の建設許可取得とともに行政手続きがかなり煩雑であることをうかがわせる。後述するように同国は信用取得、投資家保護、通関分野のランクが世界のトップクラスでありことと比べて落差が大きい。

(5) Getting Credit(信用取得)

イスラエルは世界順位が第12位であり、信用取得に関しては MENA トップである。イスラエルに続くのがサウジアラビア(53位)であり、この項目に関してはイスラエルがずば抜けている。UAE、エジプト、トルコ、オマーン及びイランは世界83位の同順位である。一方信用取得が困難とされているのはイラク、シリア(共に176位)、ヨルダン、イエメン(共に167位)、パレスチナ自治政府(159位)である。因みにこの分野の MENA の世界平均順位は111位であり10項目の中では最も低く、MENA は信用取得が困難な地域であると言える。

(6) Protecting Investors(投資家保護)

MENA で投資家が最も確実に保護されているのはイスラエルで同国の世界ランクは第6位である。これに続くのがサウジアラビア(世界ランク19位)、クウェイト(32位)、チュニジア(49位)である。

これに対して低いランクにあるのがイランの150位である。中東のビジネスハブとして近年脚光を浴びている UAE はヨルダン、イラクと同じく世界128位で投資家保護の評価が低い。同国のドバイには日本から数多くの企業が進出しているにもかかわらず、投資家保護が十分でないことは懸念すべき材料である。

(7) Paying Taxes(徴税)

この項目では UAE が世界1位、カタールが2位、サウジアラビアが3位でありこれら3カ国が世界のベスト3を独占している。またバハレーン(7位)、オマーン(10位)、クウェイト(11位)など GCC6カ国が世界の上位に名を連ねている。GCC 各国では個人所得税が免除されているほか法人税も非常に低い。この点がビジネス環境として高く評価されているようである。なおこの項目の MENA の世界平均順位は65位であり10項目の中では最も順位が高い。但し一方ではイラン(129位)、エジプト(145位)など税負担のレベルが高い国がある。MENA は一部の産油国とその他の国で徴税レベルの格差が大きい。因みにこの項目の日本の世界順位は127位とかなり低い。

(8) Trading Across Borders(通関)

事業用の資本財を輸入し、或いは完成した製品を輸出するためには税関手続きが簡単であることが望ましい。この分野では UAE が世界第5位であり評価が高い。ドバイのジュベール・アリ自由貿易ゾーンはソフト、ハードの両面で周辺国の追随を許さない3国間貿易の拠点であり、このことが高い評価につながっている。これに次ぐのがイスラエル(世界10位、以下同じ)で輸出立国を運命付けられた同国の政策に負うところが大きいのであろう。以下チュニジア(30位)、サウジアラビア(36位)、モロッコ(47位)、オマーン(49位)と続いている。エジプト(70位)、トルコ(78位)はほぼ世界の平均レベルである。一方評価が低いのはイラク(179位)である。

(9) Enforcing Contracts(契約強制力)

この項目のトップはトルコ(世界40位、以下同じ)で、これに次ぐのがイエメン(45位)、イラン(53位)である。これに対しサウジアラビア、UAE はそれぞれ世界124位と104位と厳しく一見意外な評価と言える。この分野の MENA 各国の評価は総合順位とかなり異なっている。GCC 各国は上記サウジアラビア、UAE の他、クウェイト(117位)、バハレーン(113位)、オマーン(107位)など軒並み100位以下である。GCC 諸国は契約強制力の分野では世界レベルからかなり遅れているようである。

(10) Resolving Insolvency(清算)

事業の撤退を決断した場合、清算手続きをスムーズに行う必要があり、起業(項目1参照)と同様外国投資家にとっては重要な要素である。この面ではバハレーンが世界27位であり、MENA 地域では最も高い評価を得ている。これに続くのがカタール(世界36位、以下同じ)、チュニジア(同39位)、イスラエル(同47位)。

これに対しイラク及びパレスチナ自治政府は世界最下位(185位)である。またトルコ(124位)、イラン(126位)、エジプト(139位)なども世界ランクが低く、GCC のサウジアラビア及び UAE もそれぞれ107位、101位であり評価はかなり厳しい。

4. 主要5カ国と日本との比較(レーダーチャート)

(図http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/13-G01.pdf 参照)

図はサウジアラビア、エジプト、トルコ、UAE 及びイランと日本の項目別世界順位をレーダーチャートとして表示したものである。レーダーチャートは最も外側が世界順位1位であり内側の中心は世界181位である。また最上段の1から11までの数字は1が総合順位であり、2～11までは前項に述べた調査項目の(1)から(10)を示している。各分野の世界順位を結ぶ青い輪が各国の状況である。レーダーチャートの青い輪が外側に広がっているほど世界での順位が高く、また輪の形が円に近いほど各分野の世界順位が平均していることを示している。

総合順位が世界22位のサウジアラビアは徴税分野で世界3位その他、電力事情、登記、投資家保護で世界20傑に入っておりビジネス環境は全般的にかなりすぐれている。但し契約強制力は世界124位とかなり低く、清算の評価(107位)も見劣りがする。

サウジアラビアと世界24位の日本を比較すると、日本は清算の分野では世界一位であり、通関(世界19位)、投資家保護(同19位)、信用取得(同23位)及び電力事情(同27位)の分野ではビジネス環境が優れているとの評価を受けているのに対し、起業(114位)或いは徴税(127位)の分野では世界順位が低く、サウジアラビアに対してかなり見劣りがする。また建設許可取得、登記の分野でも世界平均をやや上回る順位にとどまっている。サウジアラビアと日本の両国を比べると投資家保護及び通関、電力事情の三分野では共に順位が高いが、その他の7分野では一方の順位が高ければ他方の順位は低く、対照的な様相を見せている。

UAE は総合順位が世界26位であるが項目別に見るとかなり順位の高低差が激しい。即ち電力事情(世界7位)、徴税(1位)及び通関(5位)の4分野では世界最高水準であるが、投資家保護、契約強制力及び清算についてはいずれも世界100位以下であり、全体的にバランスを欠いたビジネス環境のようである。

総合順位が世界71位のトルコの場合は建設許可取得(世界142位)清算(同124位)の世界順位が低く、その他の項目は世界平均をやや上回る50位～70位前後である。同国のビジネス環境は比較的バランスが取れていると言えよう。またエジプト(総合世界順位109位)は、起業分野のみ優れているが(世界26位)、その他の分野は殆どが世界平均を下回っており、特に建設許可取得(同165位)、契約競争力(152位)、徴税(145位)、清算(139位)などがかなり見劣りする。イランは総合順位145位で世界の平均以下であるが、項目毎に見ても殆どが世界100位以下であり契約強制力(同53位)が目立つ程度である。

5. 2009～2013年の順位の推移

(表http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/13-T03.pdf 参照)

2009年から2013年までの5カ年について MENA 各国の順位の変遷を見ると、サウジアラビアが5カ年連続して MENA トップの評価を得ている。UAE は2009年には MENA 19カ国中の5位であったが、その後徐々に順位を上げ現在はサウジアラビアに次ぐ2位である。イスラエルは5年間を通じて常に2位又は3位を維持し、カタールは4位又は5位を、またオマーンは6位か7位につけている。GCC6カ国は毎年 MENA の上位を占めているが、上昇傾向の UAE、安定したサウジアラビア、カタール、オマーンに比べ、クウェイトは5年間で6位から9位に下落しており、またバハレーンも2位から5位に下がっている。両国のビジネス環境が悪化していることがわかる。

5カ年の世界順位の推移を見るとサウジアラビアは16位(09年)→13位(10年)→10位(11年)→12位(12年)→22位(13年)であり、09年から11年の3年間でベスト10まで上昇した後は順位は下落傾向であり、特に今回は20位以下に急落している。これに対して世界順位の上昇が著しいのは UAE であり、同国の順位は2009年の46位から2010年には33位に急上昇し、さらに2013年には世界26位となりサウジアラビアを激しく追い上げている。

チュニジアは2011年までは UAE と同じように順位を大幅に上げ世界73位から40位になったが、それ以降は毎年順位を下げており現在は50位である。同国は2011年に政変(アラブの春)があり、

その後の総選挙でイスラム政党が第1党になった。これらの現象がビジネス環境の悪化ととられたようであるが今後どのような変化が起こるか注視する必要があるようだ。

GCC の一翼を担うクウェートのビジネス環境は52位(09年)→61位(10年)→71位(11年)→82位(13年)と5年間で30位もランクを落としている。国内の政情が不安定で国会の解散と内閣改造を頻りに繰り返していることがビジネスのマイナス要因となっている。またバハレーンも18位(09年)→20位(10年)→33位(11年)→38位(12年)→42位(13年)と毎年ランクを下げている。同国の場合近年 UAE のドバイに地域のビジネス・ハブの地位を脅かされ、またカタールが急速にビジネス環境を整えてきたため相対的に地位が低下していることに加え、最近は一派による反政府デモが多発するなど不安定の度合いを増しており、同国のビジネス環境に改善の兆しが見えない。

6. MENA 主要5カ国と日本、中国の世界順位の比較

(図http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/13-G02.pdf 参照)

サウジアラビア、イスラエル、UAE、トルコ及びエジプトの5カ国に日本及び中国を加えた7カ国の2009～2013年の世界順位の推移を見ると、2009年にはサウジアラビアは日本(12位)より低い16位であったが、翌2010年には日本を抜いて世界13位となりその後3年間はランクは10台前半であった。これに対し日本は2009年の世界12位から2010年には15位に下がり2011年以降は世界20位にとどまっている。但しサウジアラビアは2013年に前年の12位から一気に22位に急落したため再び日本が上位につけている。

この2カ国を急迫しているのが UAE である。同国の2009年の順位は世界46位でありイスラエルよりも低かったが2010年には33位、2013年には26位に躍進しており日本或いはサウジアラビアに追いつこうとしている。イスラエルは2009年から2011年までは30位前後を上下していたが、それ以降は毎年順位を下げ2013年は38位に落ちている。トルコは2009年の59位が翌年には73位に急落、その後70位台に留まっている。

中国の国際順位は83位(09年)→89位(10年)→87位(11年)→91位(12年)→91位(13年)と上向き気配が見られない。中国は GDP が日本を追い抜き世界第2位になるなど経済発展が著しいが、ビジネス環境については停滞又は悪化していると評価され長期的にみて問題含みである。なおエジプトは2009年の114位から2010年には106位に順位をあげたが世界全体から見れば平均をかなり下回っておりビジネス環境の改善余地が大きい。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp